

子どもの気持ち

この章では、三重県が実施した「子ども条例に基づく調査」の結果を中心に、子どもたちの気持ちを「自分が好き」などという自己肯定的な気持ちと「つらい気持ちになるとき」の状況からみていきます。

「自分が好き」だと思える子どもは全体では約半数ですが、成長とともにその割合が少なくなります。また、「夢や将来の希望がある」という子どもは、小学生では85%を超えていますが、中学生、高校生では70%前後と少なくなっています。

「自分が好き」、「夢や将来の希望がある」という自己肯定的な感情には相関関係がみられます。

楽しいと感じるのは、「友だちと仲良くしているとき」と85%の子どもが答えています。つらい気持ちになるのも「友だちと仲良くできないとき」で、60%以上の子どもが答えています。

また、悩みや相談の状況についても、「友だちとの関係」が悩みの最大要因であるとともに、相談相手としても「友だち」が最も多く、友だちとの強い関係がみられます。

つらい気持ちになったとき、多くの子どもは相談相手を持っていますが、20%近くの子どものがつらい気持ちになったときに「がまんする」と答えています。

規範意識等に関しては、「いじめは絶対にいけない」、「近所の人へのあいさつ」などで、高い意識が伺えます。

※ 本書では、子どもの『自己肯定的な感情(=自己肯定感)』を、「自分のことが好きであること」や「夢や将来の希望があること」として、その感情が日常のどういう状況と関連が深いかについて「条例・子ども調査」に基づきみていくこととしています。

1 節 子どもの自己肯定感

(1) 全国調査からみた子どもの「気持ち」

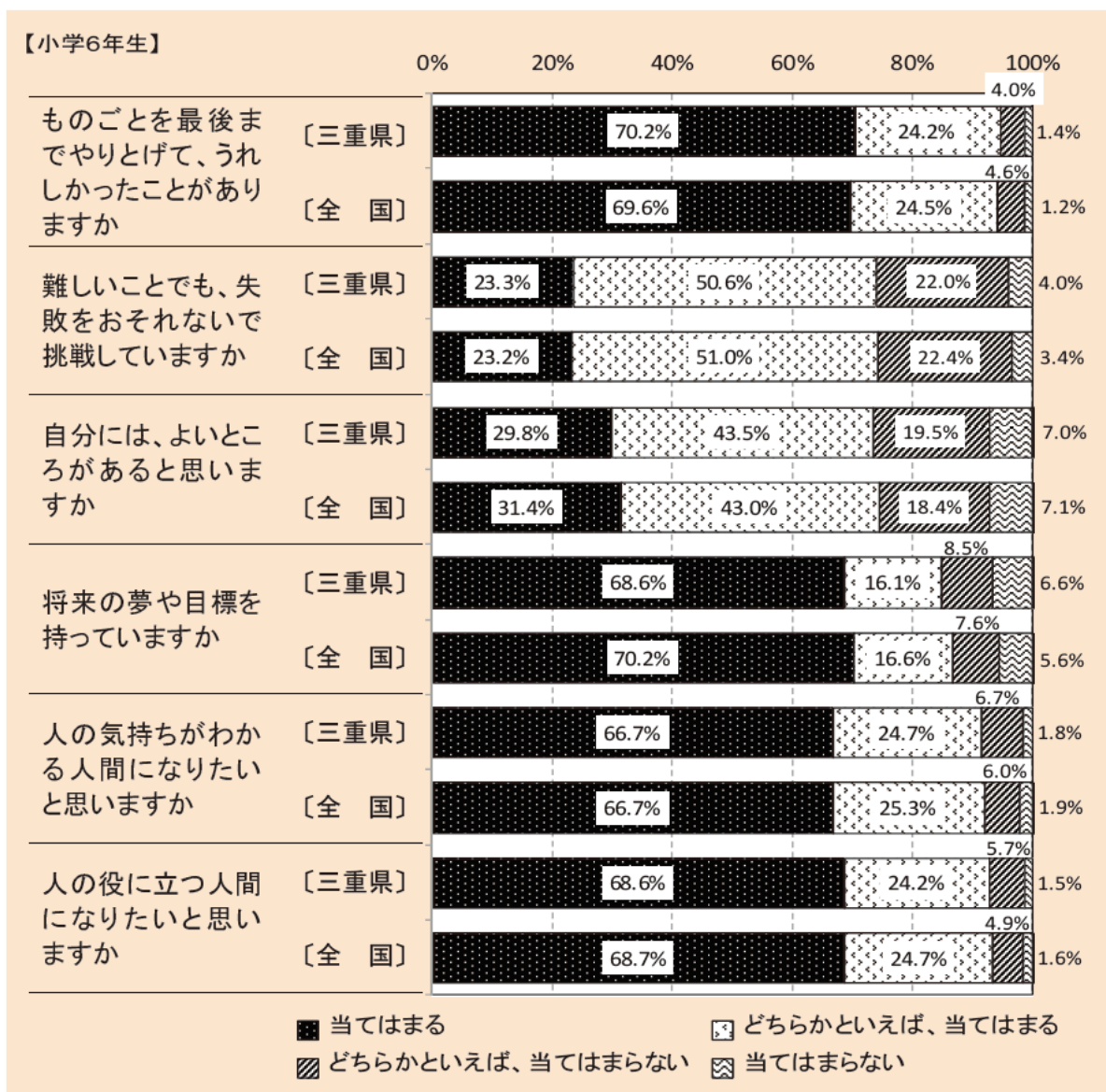
「自分への肯定的な感情」や「挑戦心」 は成長とともに低下

「全国学力・学習状況調査」によると、「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがあるか」、「人の役に立つ人間になりたいと思うか」、「人の気持ちがわかる人間にな

りたいと思うか」という問いに、小学生、中学生とも 90%以上が「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答えています。

一方で、「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか」、「自分には、よいところがあると思いますか」の問いには、小

図 2-1 小学生の意識・意欲（平成 22 年度調査結果）



資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

注：この問いは毎年度実施されているが、ここでは平成 22 年度調査結果のみ掲載した。

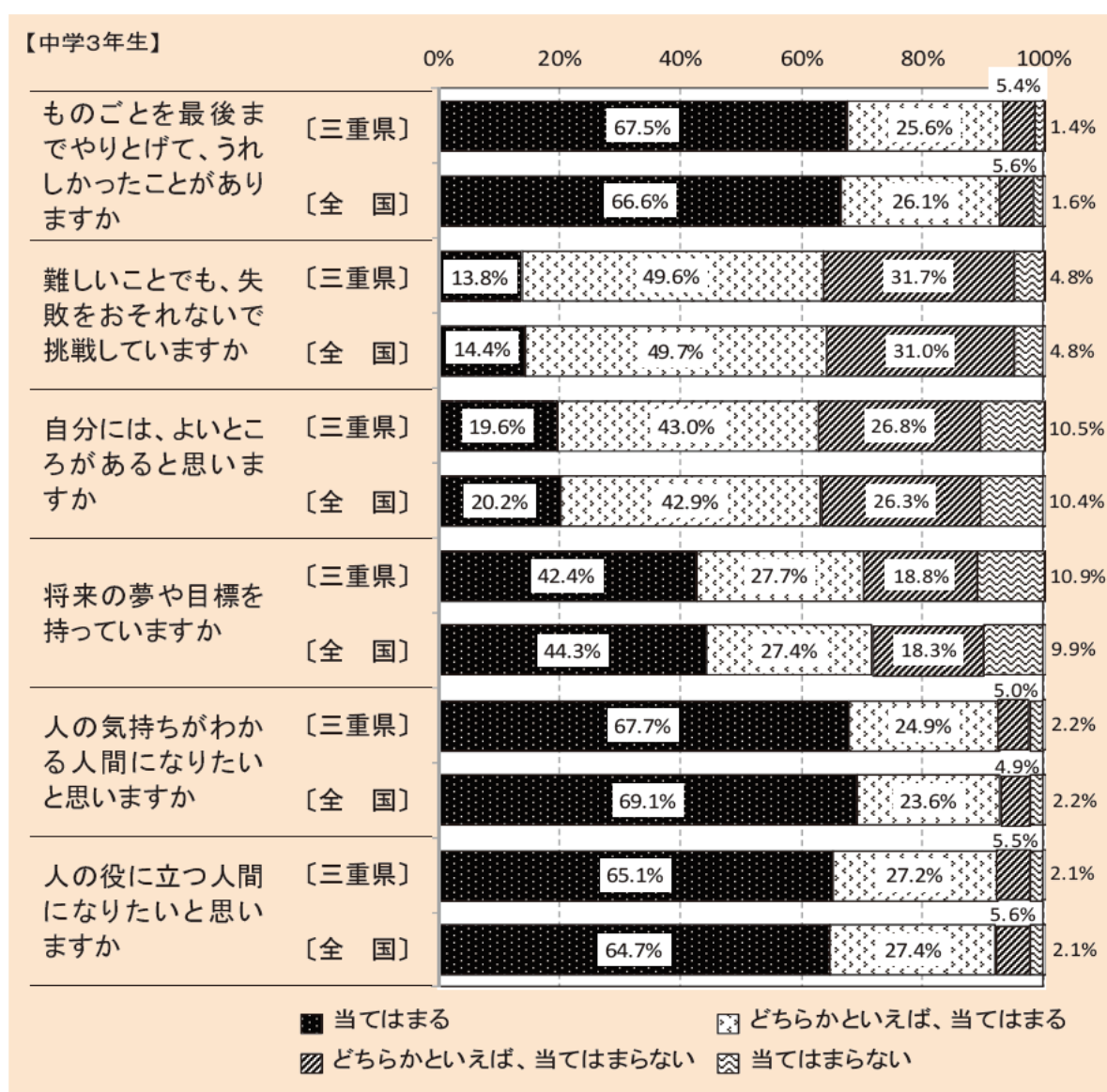
学生の70%以上、中学生の60%以上が「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答えています。他の質問項目よりかなり少なくなっています。また、これらは、中学生になると肯定的回答が少なくなっていることがわかります。

また、「将来の夢や目標を持っていますか」では、小学生の約85%が「当てはまる・ど

ちらかといえば当てはまる」と答えているのに対して、中学生では約70%と大きく低下しています。

なお、すべての項目において、三重県と全国の比較ではほとんど差がみられません。

図2-2 中学生の意識・意欲（平成22年度調査結果）



資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

注：この問いは毎年度実施されているが、ここでは平成22年度調査結果のみ掲載した。

(2) 子どもの自己肯定感

「自分が好きでない」子どもが 20%近い

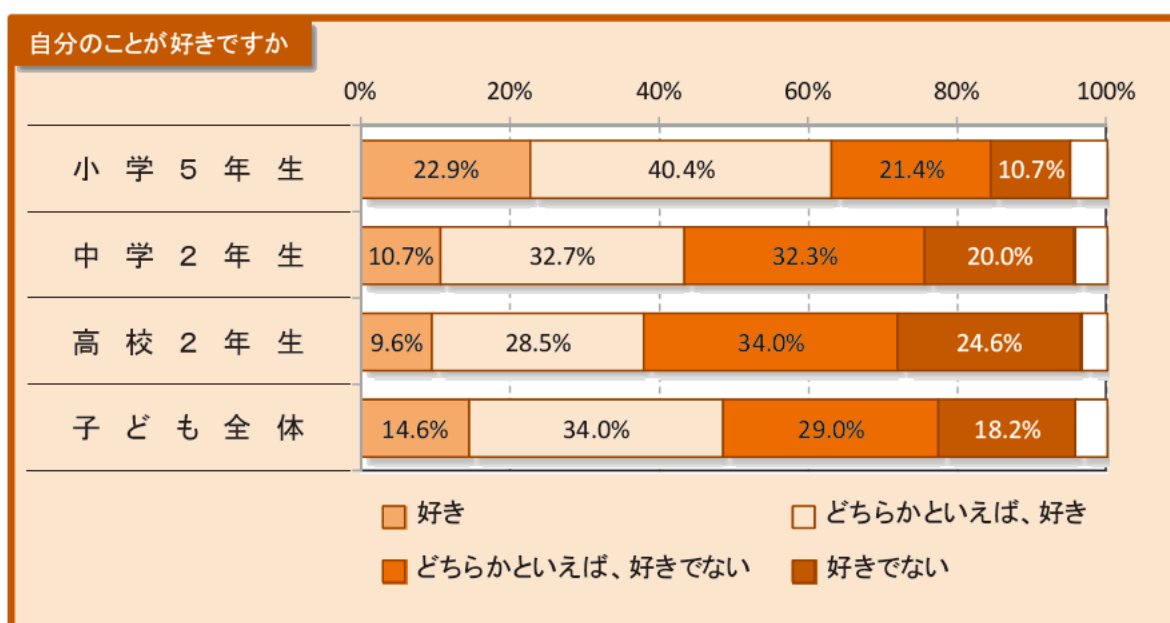
「自分のことが好きですか」の問いについて、「好き・どちらかといえば、好き」と答えた子どもと、「好きでない・どちらかといえば、好きでない」と答えた子どもは、ほぼ同じ割合になっています。

これを学年別にみると、小学生は「好き・どちらかといえば、好き」が 60%以上に上

るのに対し、中学生は合わせて 40%強、高校生は合わせて 40%弱にとどまり、学年が上がるとともに少なくなっています。

また、「好きでない」という回答が、全体で 20%近くを占めています。小学生では約 10%ですが、学年が上がるともに増え、高校生では約 25%となっています。

図 2-3 自分のことが好き



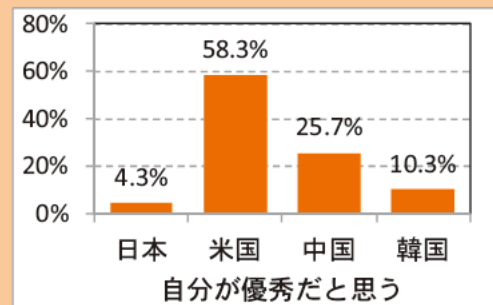
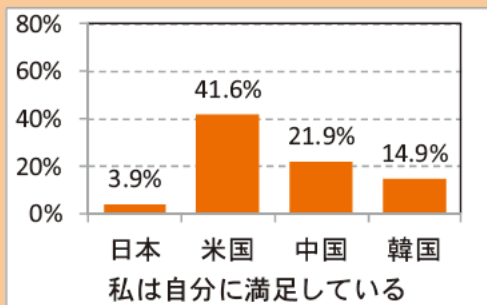
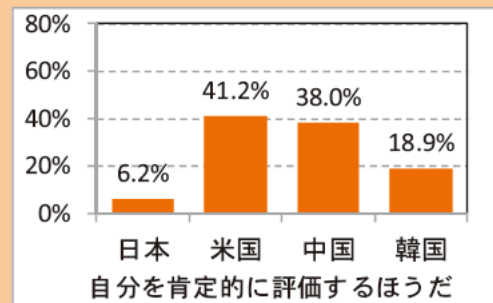
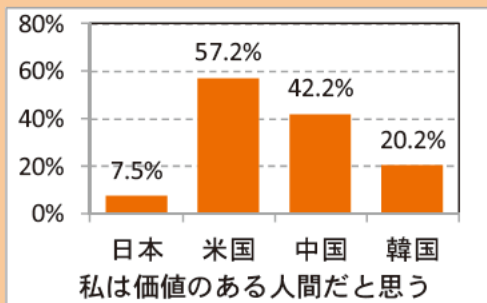
資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

日本の子どもは自己肯定感が低い

『自己肯定感』にかかわると思われるいくつかの意識について、高校生へのアンケート調査による国際比較をしたデータがあります。

下の図をみると、日本、米国、中国、韓国の高校生に、「私は価値のある人間だと思う」、「自分を肯定的に評価するほうだ」、「私は自分に満足している」、「自分が優秀だと思う」の4つの面で自己評価してもらったところ、いずれも日本の高校生が数%であるのに対し、米国をはじめとする3か国の高校生は自分への評価が高いことがわかります。

このように、日本の子どもは外国の子どもと比較して、自己肯定感が低いととらえられています。



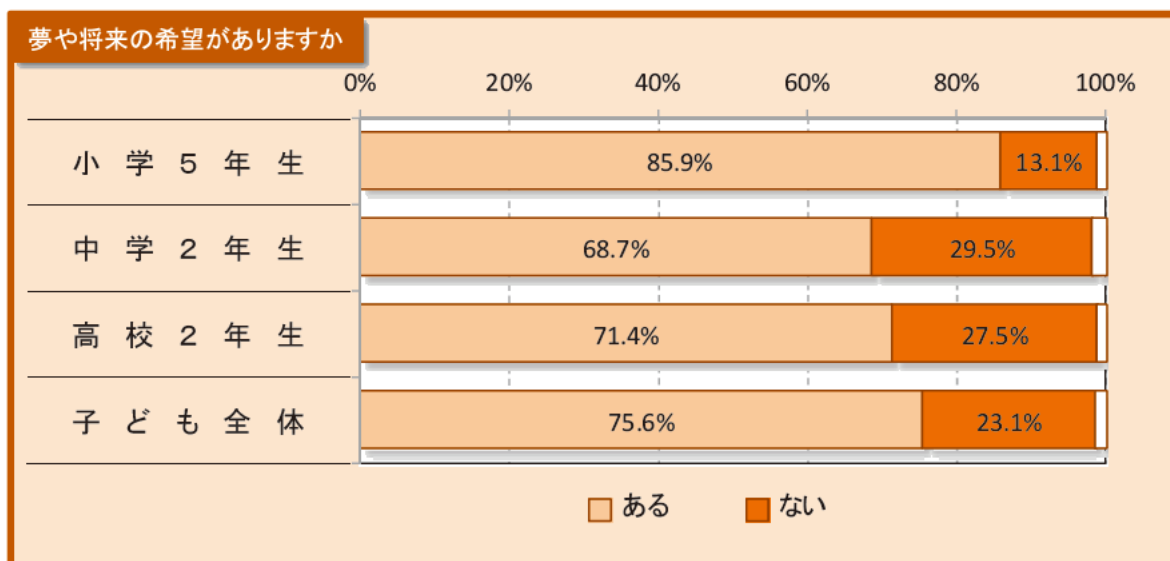
資料：日本青少年研究所「高校生の心と体の健康に関する調査」（2011年2月）

夢や将来の希望がある子どもは4人に3人、小学生では9割に近い

「条例・子ども調査」で、「夢や将来の希望がある」と答えた子どもは、約75%に上っています。

学年別で見ると、85%以上の小学生が「ある」と答えていますが、中学生、高校生になると70%前後に減少しています。

図2-4 夢や将来の希望



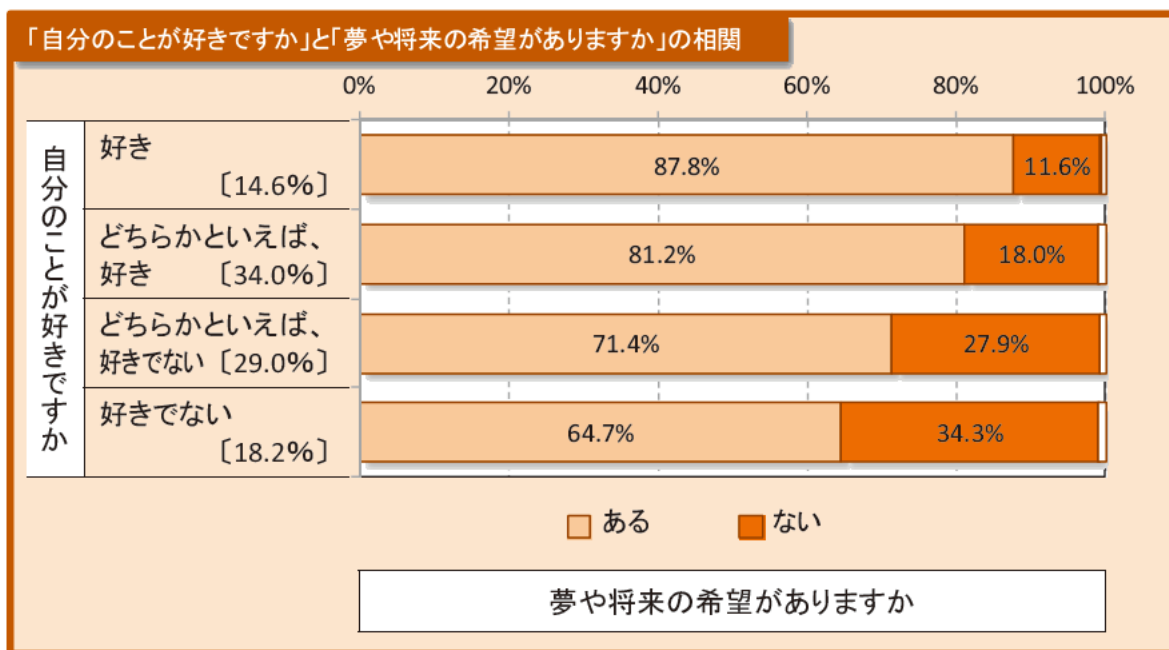
資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

自分のことが「好き」な子どものなかには、「夢や将来の希望」を持っている子どもが多い

「自己肯定感」を表す項目として設定した、「自分のことが好きか」、「夢や将来の希望があるか」の2項目の相関をみます。

「自分のことが好き・どちらかといえば、好き」と答えた子どもの80%以上が、「夢や将来の希望がある」と回答しているのに対して、「自分のことが好きでない・どちらかといえば、好きでない」と答えた子どもは、夢や将来の希望が「ある」とした回答が70%程度にまで減少します。

図2-5 「自分が好き」と「夢や将来の希望がある」との相関

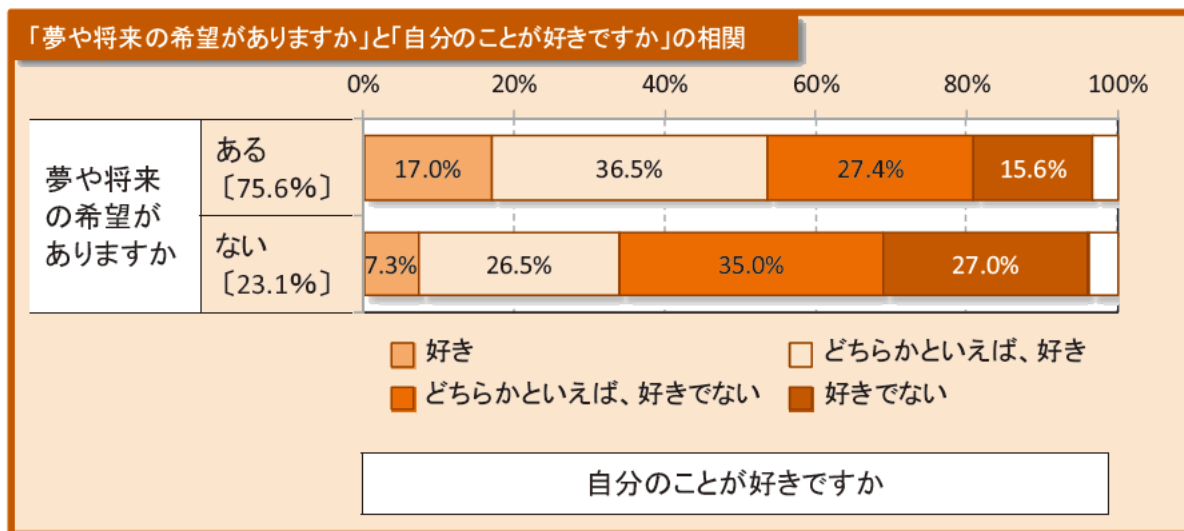


資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

また、「夢や将来の希望がある」と答えた子どもは、50%以上が「自分のことが好き・どちらかといえば、好き」と答えているのに対し、「夢や将来の希望がない」と答えた子どもでは30%強にとどまります。

これらのことから、「自分のことが好きである」ことと、「夢や将来の希望がある」ことには、強い関係性があると考えられます。

図2-6 「夢や将来の希望がある」と「自分が好き」との相関



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

「友だちと仲良くしているとき」が一番楽しい

「条例・子ども調査」をみると、友だちと仲良くしているときに「楽しいと感じる」子どもが最も多く、全体で 85% 近くに上り、すべての学年で 80% 以上という結果になっています。次いで、「ひとりで好きなことをしているとき」が子ども全体で約 60% に上りますが、これについては、学年が上がるにつれて増加する傾向がみられます。一方、「よい成績がとれたとき」や「家族と話をしたり、食事をしたりして一緒に過ごしているとき」といった回答は、学年が上がるにつれて減少する傾向にあります。

また、「楽しいと感じるときはない」という回答は、学年が上がるにつれて増えており、高校生では 0.8% となっています。

また、「楽しいと感じるときはない」という回答は、学年が上がるにつれて増えており、高校生では 0.8% となっています。

図 2-7 楽しいと感じるとき（複数回答・いくつでも）

	小学 5 年生	中学 2 年生	高校 2 年生	子ども 全体
友だちと仲良くしているとき	84.6%	85.6%	83.1%	84.5%
ひとりで好きなことをしているとき	50.7%	62.2%	67.1%	59.8%
よい成績がとれたとき	56.2%	50.6%	34.5%	47.4%
家族と話をしたり、食事をしたりして一緒に過ごしているとき	51.3%	37.5%	34.3%	41.3%
部・クラブ活動をしているとき	42.8%	45.5%	28.9%	39.2%
授業がよくわかったり、先生の話に興味を持っておもしろいとき	36.5%	32.4%	23.9%	31.1%
クラスや学校の行事・活動などで自分の意見が活かされたとき	21.2%	16.5%	13.2%	17.1%
自分の意見や考えを発表して、先生や友だちにほめられたとき	23.3%	14.9%	10.9%	16.5%
塾や習いごとをしているとき	22.7%	10.5%	4.9%	12.9%
サクル活動や地域の行事などに参加しているとき	8.1%	4.8%	6.1%	6.4%
その他	7.4%	3.9%	5.0%	5.5%
楽しいと感じるときはない	0.1%	0.5%	0.8%	0.5%

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

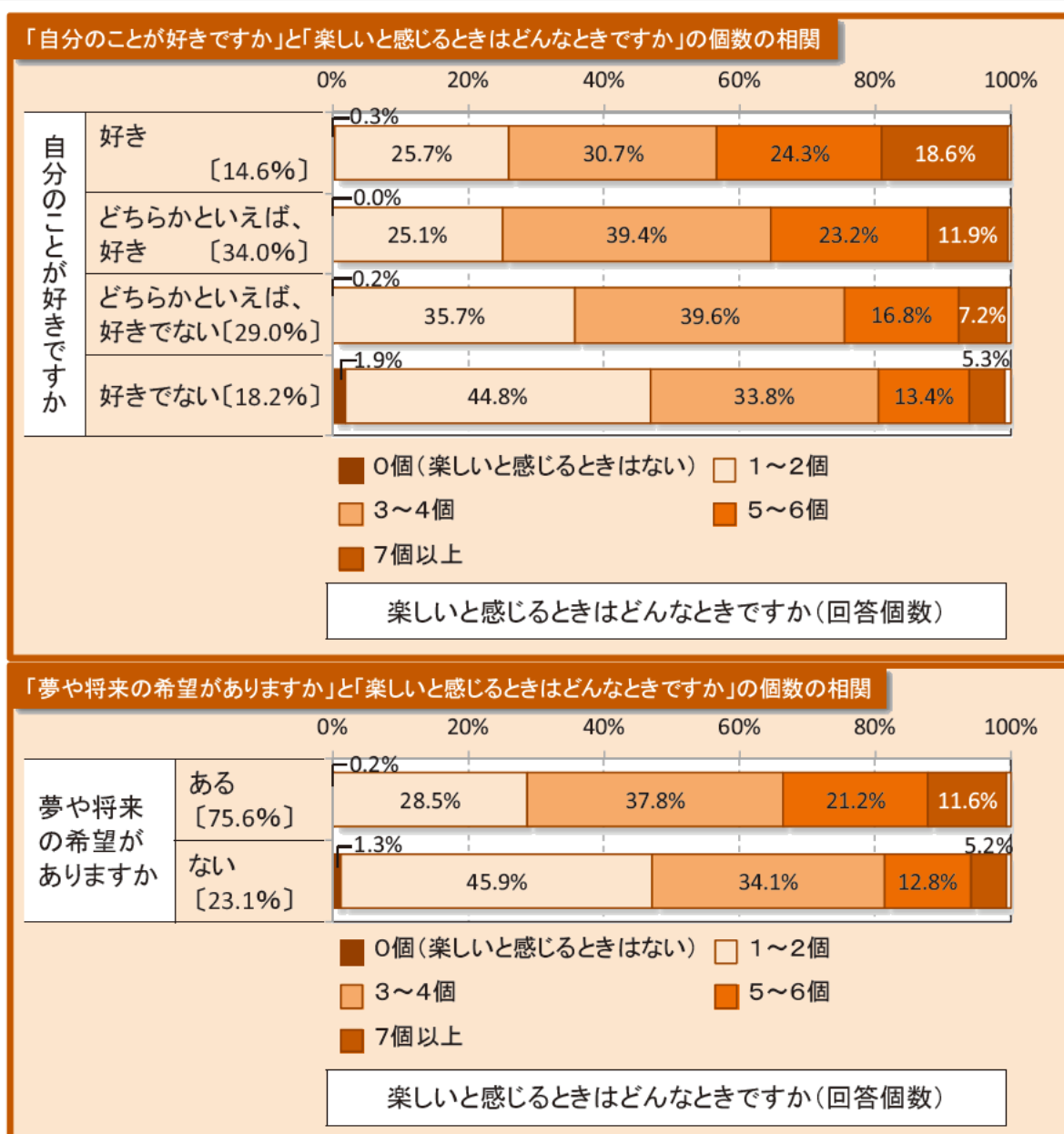
「自己肯定感」が高い子どもは、楽しいと感じる場面が多い

「自己肯定感が高いこと」と、「楽しいと感じるとき」との相関をみます。

まず、「楽しいと感じるときはどんなときか」という問いに回答した個数をみると、「自分のことが好き・どちらかといえば、好き」

と回答した子どものほうが、より多くの答えを選んでおり、楽しいと感じることが多い傾向が見いだせます。同様に、「夢や将来の希望がある」と答えた子どものほうが、より多くの答えを選んでおり、「自己肯定感」が高い子どもは、楽しいと感じる場面が多いという傾向がうかがえます。

図2-8 「自分が好き」「夢や将来の希望がある」と「楽しいとき」の回答個数との相関



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

注：「楽しいと感じるときはどんなときですか」との問い（複数回答）に、11個の選択肢のなかから選んだ回答個数をみたもの。

「自己肯定感」が低い子どもは、相対的にひとりの時間を好む傾向が強い

「自分のことが好きか」ということと、「楽しいと感じるとき」との相関をみます。

「自分のことが好き・どちらかといえば、好き」と答えた子どもの60%近くが「家族と話をしたり、食事したりして一緒に過ごしているとき」を「楽しい」と感じているのに

対し、「自分のことが好きでない」という子どもは30%に満たず、30ポイントの差があります。

他の多くの場面でも、「自分のことが好き」という子どものほうが、「好きでない」という子どもよりも楽しいと感じる割合が大きくなっています。これらの傾向は、「夢や将来の希望があるかどうか」の問いでも同様の傾向を見いだすことができます。

図2-9 「自分が好き」と「楽しいとき」との相関

		楽しいと感じるときはどんなときですか						
		友だちと仲良くしているとき	ひとりで好きなことをしているとき	よい成績がとれたとき	家族と話をしたり、食事をしたりして一緒に過ごしているとき	部・クラブ活動をしているとき	授業がよくわかったり、先生の話に興味を持っておもしろいとき	
自分のことが好きですか	好き [14.6%]	81.9%	55.3%	55.7%	57.5%	45.6%	41.2%	
	どちらかといえば、好き [34.0%]	89.4%	58.7%	54.5%	47.4%	44.6%	34.9%	
	どちらかといえば、好きでない [29.0%]	85.9%	62.3%	44.1%	35.6%	36.7%	28.6%	
	好きでない [18.2%]	77.1%	63.9%	36.2%	26.8%	29.9%	22.9%	
	子ども全体	84.5%	59.8%	47.4%	41.3%	39.2%	31.1%	

		楽しいと感じるときはどんなときですか						
		見が生かされたとき	クラスや学校の行事・活動などで自分の意見が認められたとき	自分の意見や考えを発表して、先生や友だちにほめられたとき	塾や習いごとをしているとき	サークル活動や地域の行事などに参加しているとき	その他	楽しいと感じるときはない
自分のことが好きですか	好き [14.6%]	25.8%	29.2%	18.8%	10.4%	7.4%	0.3%	
	どちらかといえば、好き [34.0%]	20.4%	19.2%	14.5%	7.2%	5.3%	0.0%	
	どちらかといえば、好きでない [29.0%]	13.5%	12.5%	11.4%	5.0%	4.0%	0.2%	
	好きでない [18.2%]	11.6%	9.8%	8.4%	3.6%	6.9%	1.9%	
	子ども全体	17.1%	16.5%	12.9%	6.4%	5.5%	0.5%	

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

逆に、「楽しいと感じる」場面ごとに、特徴をみていくと、「ひとりで好きなことをしているとき」という回答については、「自分のことが好き」という子どもより「好きではない」という子どものほうが割合が大きく、また、「将来の夢や希望がある」子どもより「ない」子どものほうが割合が大きくなっており、他の場面とは逆の傾向を示しています。

つまり、「自己肯定感」が高くない子どものなかには、ひとりの時間を好む傾向にある子どもが多いことがうかがえます。

また、「友だちと仲良くしているとき」という答えについては、「自分のことが好きでない」と答えた子どもでも 80%近くが楽しいと回答しています。

図 2-10 「夢や将来の希望がある」と「楽しいとき」との相関

		楽しいと感じるときはどんなときですか					
		友だちと仲良くしているとき	ひとりで好きなことをしているとき	よい成績がとれたとき	家族と話をしたり、食事をしたりして一緒に過ごしているとき	部・クラブ活動をしているとき	授業がよくわかったり、先生の話に興味を持っておもしろいとき
夢や将来の希望がありますか	ある [75.6%]	85.6%	59.5%	50.6%	45.4%	41.8%	33.8%
	ない [23.1%]	82.1%	61.4%	38.1%	28.0%	31.7%	22.9%
	子ども全体	84.5%	59.8%	47.4%	41.3%	39.2%	31.1%

		楽しいと感じるときはどんなときですか					
		見が生かされたとき	クラスや学校の行事・活動などで自分の意見が認められたとき	自分の意見や考えを発表して、先生や友だちにほめられたとき	塾や習いごとをしているとき	サークル活動や地域の行事などに参加しているとき	その他
夢や将来の希望がありますか	ある [75.6%]	19.5%	18.8%	15.0%	7.5%	6.0%	0.2%
	ない [23.1%]	9.9%	9.7%	6.7%	2.9%	3.8%	1.3%
	子ども全体	17.1%	16.5%	12.9%	6.4%	5.5%	0.5%

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

2節 子どもの規範意識

規範意識は全般に高い

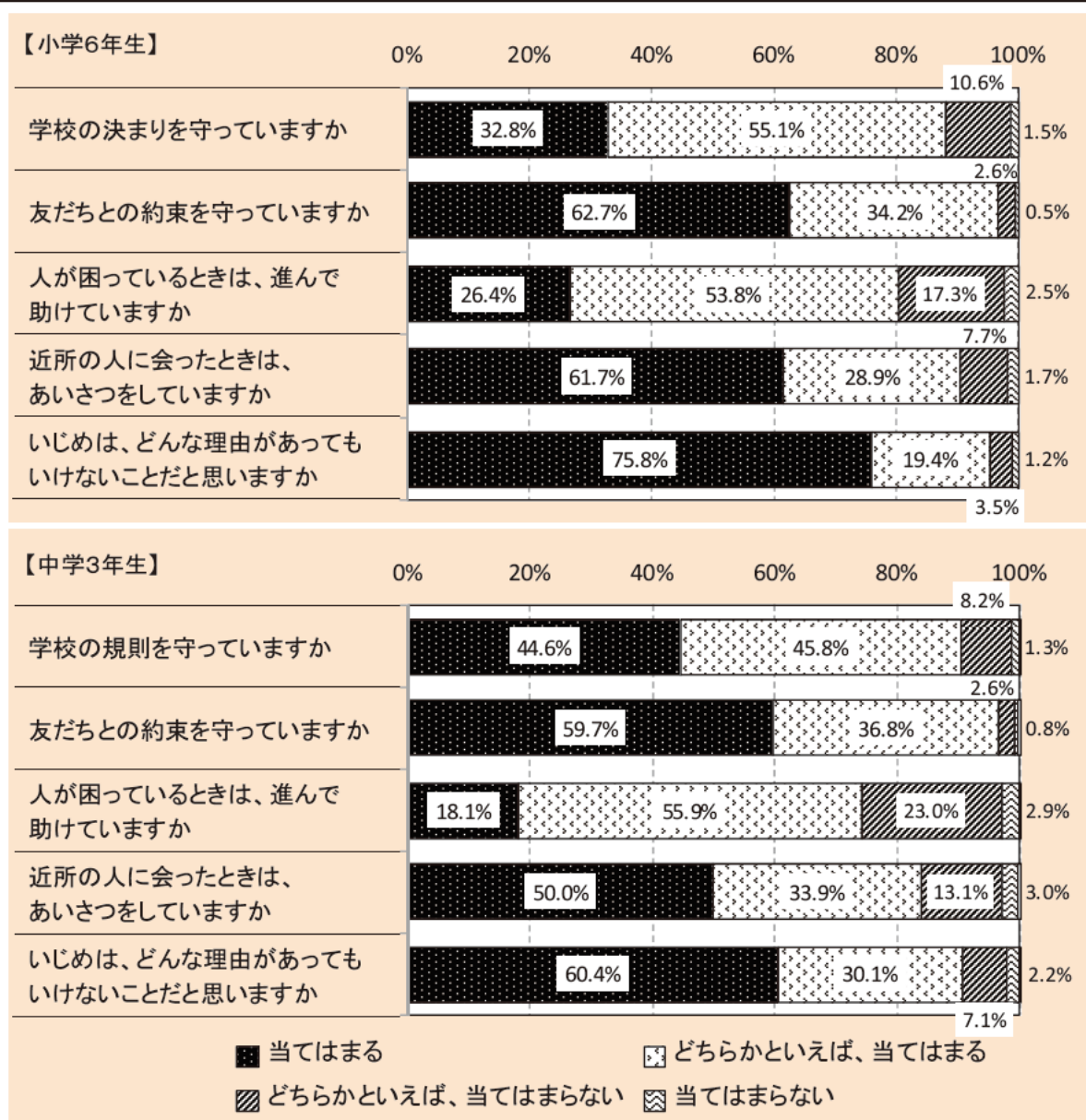
「全国学力・学習状況調査」によると、概ね90%以上の小学生・中学生は、社会の規範などを守ろうとする意識を持っています。

ただし、「人が困っているときは、進んで助けているか」という問いに、「当てはまらない・どちらかといえば、当てはまらない」と回答した子どもは20%前後と、少し人助

けに躊躇する姿勢が見受けられます。

また、「学校のきまりを守っている」と答えた小学生の割合は、中学生に比べて小さくなっていますが、それ以外のすべての項目については、小学生のほうが中学生よりも「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」という回答が多くなっています。

図2-11 小・中学生の規範意識等（平成22年度調査結果・三重県分）



資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

3節 子どもの悩みと相談相手

(1) つらい気持ち

悩みの多くは、友だち関係と成績

「つらい気持ちになるときはどんなときか」の問いに対し、小学生・中学生・高校生とも「友だちと仲良くできないとき」という回答が最も多く、それぞれ60%を上回っています。続く「テストの点や成績が悪いとき」は、中学生は70%近く、小学生と高校生でも50%を超えています。この2つの項目が

飛び抜けており、子どもが、友だち関係と成績に悩むことが多いことがうかがえます。

他の項目では、小学生の40%近くが「家族と仲良くできないとき」を挙げています。また、高校生の40%以上が「受験や進路のことですまくいかないとき」を挙げており、小学生・中学生を大きく上回っています。

図2-12 つらい気持ちになるとき（複数回答・いくつでも）

	小学 5年生	中学 2年生	高校 2年生	子ども 全体	
つらい気持ちになるときはどんなときですか	友だちと仲良くできないとき	64.3%	62.4%	61.4%	62.7%
	テストの点や成績が悪いとき	52.8%	67.5%	50.2%	56.8%
	家族と仲良くできないとき	39.2%	28.2%	31.9%	33.2%
	授業がよくわからないとき	34.8%	34.6%	27.1%	32.3%
	自分の意見が聞いてもらえないとき	30.1%	24.3%	28.1%	27.6%
	受験や進路のことですまくいかないとき	11.5%	27.8%	40.7%	26.3%
	部・クラブ活動の練習などがきびしいとき	15.3%	27.6%	19.4%	20.7%
	その他	6.1%	4.2%	6.3%	5.6%
	つらい気持ちになったことはない	4.7%	3.3%	3.4%	3.8%

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

(2) つらい気持ちの解決策

なんとか解決しようとする子どもが多いが、「がまんする」子どもも約 20%

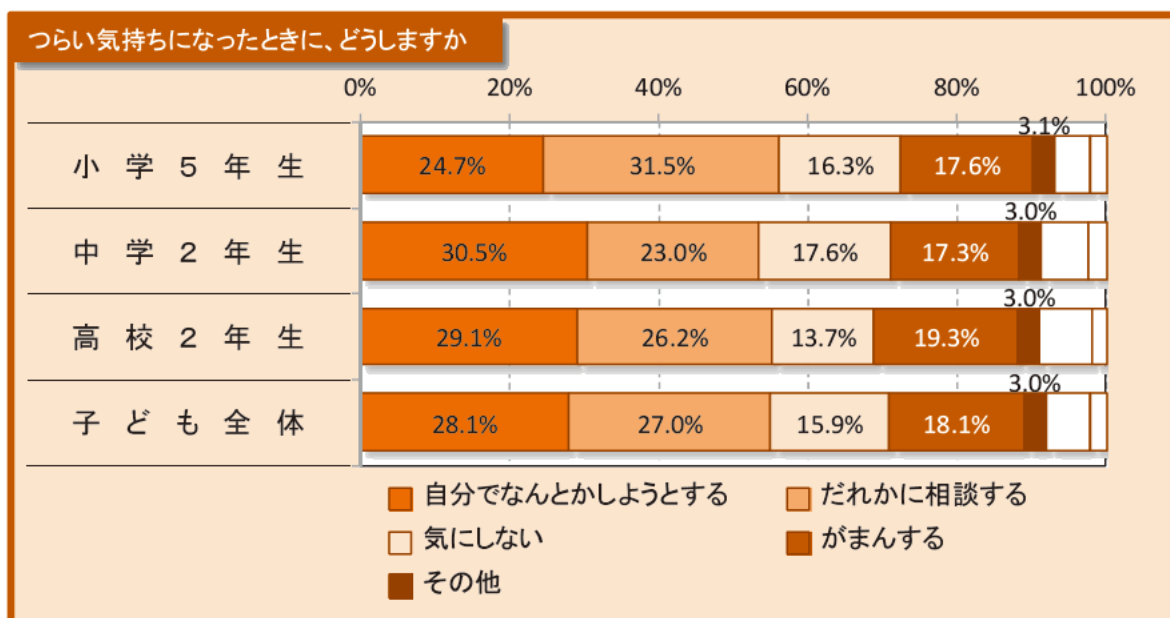
「つらい気持ちになったとき、どうするか」の問いに対し、「自分でなんとかしようとする」、「だれかに相談する」と答えた子どもは、それぞれ約 30%で、何らかの方法で解決に向かおうとしています。

学年別にみると、小学生は、「だれかに相談する」が最も多く 30%を超え、次いで「自

分でなんとかしようとする」が約 25%です。中学生、高校生は「自分でなんとかしようとする」が約 30%で最も多く、次いで「だれかに相談する」が続きます。

一方で、「がまんする」という答えが、小学生、中学生で約 17%、高校生が約 19%と、いずれも 20%近く、つらい気持ちを抱え込む子どもも多いことがわかります。

図 2-13 つらい気持ちになったらどうするか



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

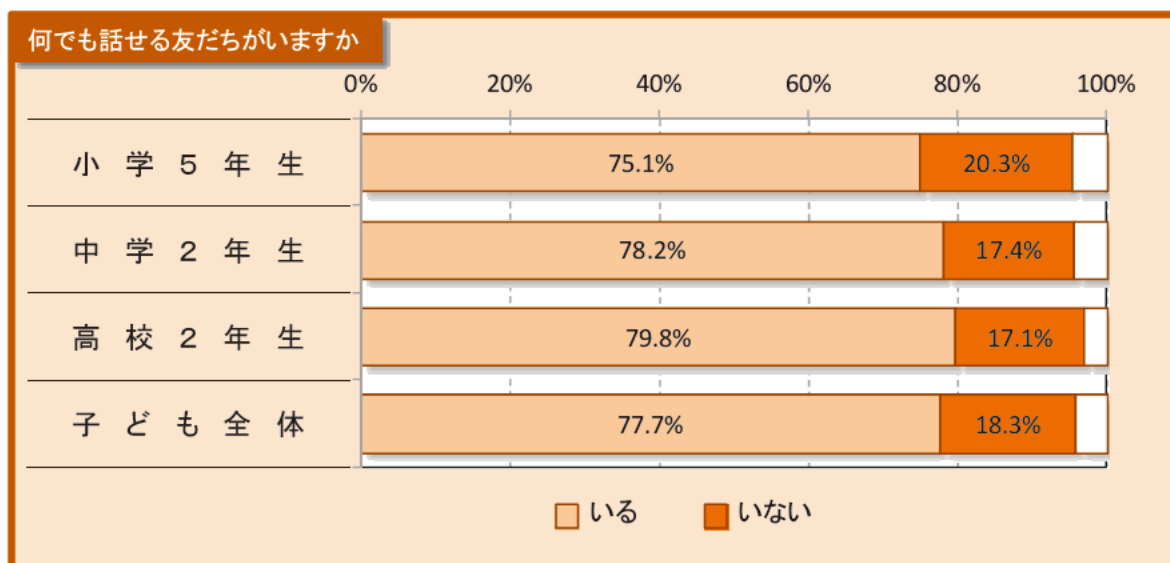
(3) 相談相手

何でも話せる友だちがいる子どもが約80%

77.7%の子どもは、「何でも話せる友だちがいる」と回答し、学年が上がるにつれてその割合が大きくなっています。一方で、「何

でも話せる友だちがない」子どもも、小学生で約20%、中学生、高校生で約17%いる状況です。

図2-14 何でも話せる友だちの有無



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

**相談相手は「友だち」が最も多いが、
「相談しない」子どもも10%以上に上る**

60%以上の子どもが「困ったことや悩みがあったときには、友だちに相談する」と回答し、前問と同様に、学年が上がるにつれてその割合が大きくなります。次いで、「母親に相談する」が約55%で続きますが、「父親」は約25%であり、母親と父親との間に30ポ

イントの差がみられます。また、母親、父親ともに、小学生が最も多く、年齢が上がるにつれてその割合が小さくなります。

一方、「だれにも相談しない」子どもが約12%に上り、学年別では、中学生で13.5%のほか、小学生と高校生も11%前後になっています。

図2-15 悩みごとの相談相手（複数回答・いくつでも）

	小学 5年生	中学 2年生	高校 2年生	子ども 全体	
困ったことや悩みがあったときには、だれに相談しますか	友だち	56.2%	66.0%	70.2%	64.0%
	母	68.0%	51.9%	46.9%	55.9%
	父	35.4%	22.8%	19.1%	26.0%
	兄弟姉妹	22.9%	18.6%	20.0%	20.5%
	学校の先生	16.5%	12.7%	12.7%	14.0%
	祖父母	17.4%	7.7%	4.9%	10.2%
	塾や習いごとの先生、スポーツクラブのコーチ	4.1%	4.5%	2.9%	3.8%
	インタ ネットでの相談	1.6%	4.0%	4.7%	3.4%
	電話での相談	0.9%	1.1%	1.0%	1.0%
	地域の知り合いの人	1.2%	0.6%	1.1%	0.9%
	専門の相談機関(病院や児童相談所など)	0.6%	0.4%	0.6%	0.5%
	児童福祉施設の先生・スタッフ	0.3%	0.2%	0.3%	0.3%
	学童保育や児童館のスタッフ	0.2%	0.3%	0.3%	0.3%
	フリ スク ルのスタッフ	0.1%	0.2%	0.4%	0.2%
	その他	1.6%	1.7%	3.2%	2.1%
だれにも相談しない	11.7%	13.5%	10.6%	11.9%	

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

聞いてほしいときには～『チャイルドライン』

「チャイルドライン」は、子どもの権利条約の理念に基づいて、①指示しない・指導しない、②傾聴する、③かけてくる子どもの主体性を大切にする、子どもの心を受け止める18歳までの子ども専用電話です。

全国統一のフリーダイヤル **0120-99-7777** で、月曜日から土曜日までの午後4時から午後9時まで受け付けています。

心配なこと、困ったこと、解決したいときには～『こどもほっとダイヤル』

「こどもほっとダイヤル」は、心配なことや困ったことなどについて相談を受け付ける子ども専用の電話相談窓口で、平成24年2月10日にスタートしました。

電話番号は **0800-200-2555** で毎日午後1時から午後9時まで受け付けています（12月29日から1月3日までを除きます）。

子どもが一人で抱えきれない悩みなどについて、電話相談員が子どもとともに解決方法を考えます。

専門的な対応が必要な場合は、子ども本人の同意を得たうえで、関係機関につながります。

電話代はかかりません。また、相談の秘密は必ず守られます。

ひとりで
なやまないで

こまったこと、しんぱいなこと
そうだんできるよ

—子どもだけが相談できる、子どものための相談電話—
『こどもほっとダイヤル』
※相談の秘密は守られます

0800-200-2555
(電話代はかかりません。※県内発信のみ)

受付時間 午後1時～午後9時
(12月29日から1月3日を除く)

三重県